

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士課程
授業名	神経再生・発生・疾患学特論			
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟 3 階講義室 3 中講義室 3 0 3	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	神経発達、神経変性疾患、末梢神経障害、治療薬、神経再生医療、脳発生			
担当教員 （下線：科目責任者）	医			
	薬			
授業の概要	中枢神経系や末梢神経系を構成する神経細胞やグリア細胞の発生、発達や役割について紹介する。また、神経変性疾患、発達障害や末梢神経障害の病態や発症機序について概説する。さらに、当該疾患に対する主要な治療薬の作用機序、副作用について説明するとともに、再生医療の可能性と課題について概説する。			
到達目標	□神経変性疾患や末梢神経障害研究の現状と、臨床におけるアンメットニーズを理解する。 □神経再生医療の可能性とそれらの課題について修得する。			
授業計画	1．神経栄養因子・サイトカイン学（那波宏之／1 回）【12/4 6限】 2．神経炎症学（那波宏之／1 回）【12/4 7限】 人の生後脳発達過程を理解し、関連する脳疾患とその病態を紹介する。 3．～6．脳の発生、精神・神経疾患ほか（三宅 歩／4 回） 【12/11 6限・7限】【12/18 6限・7限】 脳の発生と分泌タンパク質に関する研究、心の脳・神経科学的基盤について概説する。 7．末梢神経系を構成する細胞群の発生とそれらの機能的役割（今井哲司／1 回） 【12/25 6限】 末梢神経を構成する神経繊維、髄鞘細胞、化学受容器の発生や役割について紹介する。 8．末梢神経障害の病態と治療法（今井哲司／1 回）【12/25 7限】 末梢神経障害の病態や研究の最前線、治療法の現状を紹介し、アンメットメディカルニーズについて説明する。神経再生による治療戦略とその課題について説明する。			
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。			
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。			
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の 5 段階で評価し、C以上を合格とする。			
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。			
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。			
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】特に指定しない。			